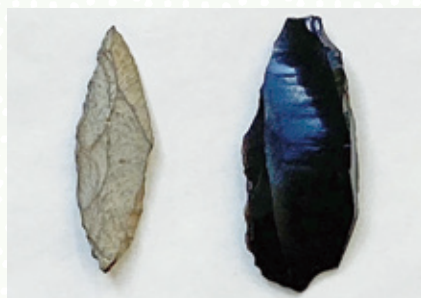


黒曜石とサヌカイト

金属の道具がなかった旧石器・縄文時代では、それに代わる道具は木や石、動物の骨などを素材としていました。

石の道具「石器」といえば、狩りをするためのやりや、木を伐るオノなどを使っている姿が思い浮かぶでしょう。石はどこにでも転がっているのですが、原始時代の人々は、落ちている石を適当に加工して使っているのではなく、用途に適した素材を厳選していました。

旧石器・縄文時代の遺跡として有名な恩原遺跡（県指定史跡、約三万三千年～一万六千年前、上齋原）や竹田縄文



ナイフ型石器（恩原遺跡）
（左）サヌカイト（右）黒曜石



石材の破片（竹田縄文遺跡）
サヌカイト（左）と黒曜石（右）



サヌカイト製のやじり
（竹田縄文遺跡）

遺跡（町指定史跡、約八千年前、竹田）をはじめ、同時代の遺跡から出土している石器の多くは「黒曜石」と「サヌカイト」とよばれる石材を使用しています。

黒曜石とは、火山岩の一種で、黒色でガラスのような成分でできた岩石です。西日本では島根県の隠岐島、大分県の姫島、佐賀県の腰岳などで産出されます。この石を割ると、割れ口がガラスの破片のように鋭いため、獣の皮を剥ぐナイフや、狩りをする時のやり、縄文時代になると弓矢の先端部をやじりなどの刃物として重宝されました。

一方のサヌカイトも火山岩の一種

ですが、「讃岐岩」という和名があるように、香川県の坂出市国分台周辺と、あとは大阪府と奈良県の境にある二上山（にじょうさん）周辺で産出される石材です。非常に硬く、叩くと高く澄んだ音が出ることから「カンカン石」ともよばれ、現在では楽器や風鈴の土産物としても有名です。灰色・黒灰色をしており、こちらも割れ口が鋭いため、黒曜石と同様に刃物として用いられました。

いずれも町内どころか県内でも産

出しない石材なのですが、高いシェアを占めているのは、石器として優れた素材であるため、何らかの方法で入手して持ち込んだということでしょう。恩原遺跡のサヌカイトは、理化学分析により香川県坂出市産であることがわかっています。また、黒曜石は島根県隠岐島産とされています。竹田縄文遺跡についても、恩原遺跡よ

り時代は下るものの、石材の産地からの距離を推定すれば、同様の産地と考えても良いでしょう。

隠岐島と香川県、現在では海を渡らなければならぬ場所からこの地までどうやって持ち込んだのかと疑問に思うかもしれません。恩原遺跡の人々がいた約三万

一万年前は、寒冷な氷河期にあたり、現在よりも海面が八〇～一四〇メートル低下していました。そのため四国も隠岐島も陸続きでしたので、遠路航海しなくても石材を入手することができました。

竹田縄文遺跡の時代には、陸続きではなかったかもしれませんが、海峡幅は今よりもかなり狭く、大きな船でなくとも往来は可能だったと思われる。

では、こうした石材をどのように入手したのかですが、①物々交換、②産地まで行って直接採取してくる。③移住生活のサイクルの中に産地が含まれている、という方法が考えられます。地図をみると、鏡野町域はちょうど隠岐島と香川県を結ぶ中間地点にあたる位置であることから、①～③いずれの方法であったとしても、石材を求めて山陽と山陰を往来する人々が鏡野町域を行き交い、短期的に滞在した場所が恩原遺跡や竹田縄文遺跡だったということでしょう。

恩原遺跡と竹田縄文遺跡の資料は、鏡野郷土博物館に展示しています。

参考資料：『上齋原村史』『鏡野町史』『旧石器人の遊動と植民』『旧石器時代ガイドブック』

鏡野町教育委員会 生涯学習課 日下
電話（0868）54-7733